

広報  
**うけん**

VOL.325  
2017 May

5

Public relations magazine of village Uken



イジュ  
(5月17日撮影)





宇検村長 完田 信有

# 平成 29 年度 施政方針

毎年、第1回村議会定例会で村長が表明する施政方針は、その年度における政策の方向性を示すものです。

今年度の施政方針の内容につきまして掲載いたします。（※紙面の都合上一部抜粋）

## はじめに

宇検村においては、村民が元気で「住んで良かった」と言える村づくりのため誠心誠意、村政運営に頑張つてまいります。

平成29年度は、村制施行100周年の記念すべき年です。現在、100周年記念事業実行委員会を中心にさまざまな取組を企画立案し準備を進めているところであり、島内外に宇検村をPRしていきたいと考えております。

## 行財政改革

財政状況については、平成9年度から平成24年度までに公債費負担適正化計画に沿って、繰上償還や起債の借入を抑制したことから、平成10年度に

66億円余りあった起債残高は平成27年度末で35億円余りと改善され、一般家庭の貯金にあたる基金残高も4億4千7百万円から17億8百万円と改善され、実質公債費比率や将来負担比率の財政指標も大きく改善されております。

ただし、今後は庁舎建設や診療所の建設、各集落の防災会館の建設等、多額の費用を要する事業計画があることから、将来的に大きな負担とならないよう見極めながら計画的に事業を進めてまいりたいと思っております。

## 農業振興

現在、米国のTPP協定離脱など世界情勢が目まぐるしく変化する中、グローバル化の進展や農業の担い手の減少・高齢化など農業を取り巻く環境も依然とし

て厳しいものがあると認識しております。今後も国の動向などを注視しながら、本村の特性を生かした安心・安全な農産物を安定的に生産できる農業を目指して進めてまいります。

## 林業振興

本村の9割以上を占める森林資源は、国立公園指定と来年夏の世界自然遺産登録に向け、「残すべき所は残り、活用する所は活用する」を念頭に置き、森林資源の

## 水産振興

今後も、各養殖業者の意見・要望等を拝聴し、協力を進めたいと考えております。

地元漁家についても、県や漁協など関係機関と連携し、漁場の環境整備・漁業就業者の確保、育成に努め漁家所得向上に努めてまいります。本年度も離島漁業再生支援事業や浜の活力・再生プランを策定・実施し安定的な経営が出来るよう協力してまいります。

## 観光

観光振興について、奄美・琉球の世界自然遺産登録が間近となりました。世界自然遺産登録になりますと湯湾岳周辺がコアな区域になりますので今年度より展望台周辺の再整備を実施してまいります。

奄美に訪れる交通では、3月26日からバニラエアー関西・奄美直行便が新たに就航することとなり、今後、観光客の増加に繋がるのは間違いありません。

このような追い風を受け、本村では、広域的に取り組んでいる認定ガイドや通訳士に村在住者も数名おり、この方々を活用し、湯湾岳を中心とする貴重な自然を活かした宇検村を満喫できる滞在型の観光客受入を検討していきたいと考えてお

## 整備事業

村道関係につきましては、村道「宇検船越線」の改良工事及び村道「石良油井線」の舗装工事に着手したところであります。

通信整備については、現代の高度な情報社会に対応する為、関係機関などと連携し、民間事業者の活用を図りながら本村にふさわしい超高速通信（光ファイバー）を今年度より整備を進めてまいります。

## 保健福祉

奄美群島における人口減少にあわせて、本村の人口も減少を余儀なくされております。

本村の高齢化の現状ですが平成29年1月で65歳以上

## 消防・防災

村民の生活が、安全で安心して暮らせる環境づくりは、行政の最も基本とするものです。

## 教育行政

今年度は、台風や豪雨時の指定避難場所となつてい各集落の公民館について、老朽化から損傷が多きい阿室集落公民館を前年度からの繰越事業として防災会館として新築することとしており、今後は老朽化の著しい公民館より年次的に建て替えも計画し、住民の安心安全に取り組んでまいります。

今年度も引き続き、地方創生総合戦略ビジョンを基に地域活性化のため、知恵を出し、取り組まなければなりません。以上

少子高齢化など急速に変化する社会情勢などに伴う教育の将来展望や喫緊の教育問題に適切に対応するため、村民憲章や村教育振興基本計画を踏まえ、「ふるさとを愛し、未来（あす）へはばたく、心豊かで、たくましい人づくり」を基本目標とし、その推進にあたっては「郷土の豊かな風土や

村政運営は、まだまだ、厳しい状況ではありますが、村民が安心して暮らせる村づくりのため、議会議員並びに村民の皆様方のご理解とご協力を頂きながら村政に邁進していく所存であります。



# ■ 平成29年度当初予算

一般会計歳入歳出総額  
29億9,230万円

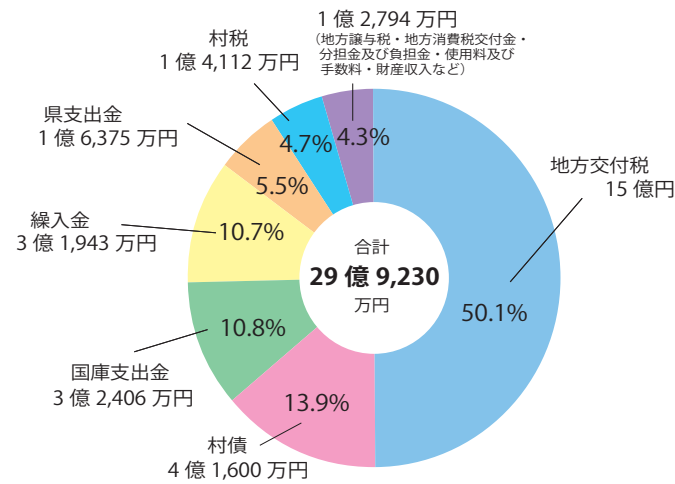
前年度比  
5.1%の増額

平成29年度の当初予算については、例年と同じく国、県からの依存財源を中心とした財政運営を行っていますが、村民の方々への行政サービスを低下させないため、事業の必要性や優先順位等を検討し慎重に予算編成に努めています。

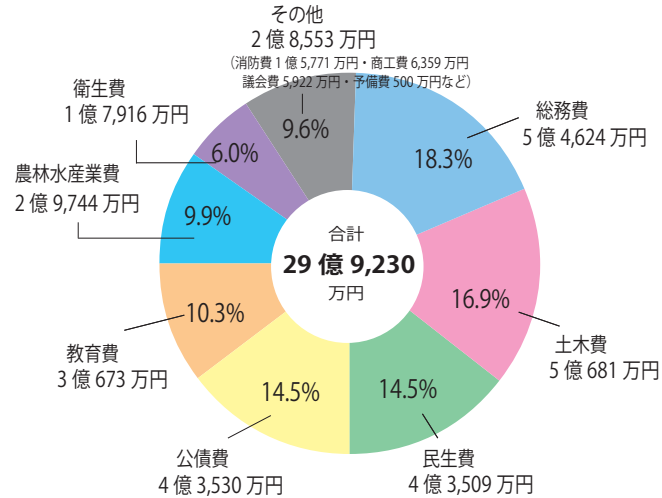
歳出の主な事業としては、総務費の中の超高速通信（光ブロードバンド）整備費や100周年関連事業の経費などがあります。

少子化対策費として子育て支援金（第3子以降の家賃補助含む）、入学祝金、出産祝い金、乳幼児等医療費助成金、また、児童生徒の減少対策として校区活性化対策委員会への運営費の補助や家賃負担の補助、特別助成金や学校給食費の助成など村独自の予算も計上しています。

## 歳入



## 歳出



### 《平成29年度の主な事業一覧》

総務費		商工費	
避難路（芦検・阿室・須古）整備事業	550万円	湯湾岳実施設計委託事業	2,500万円
100周年実行委員会補助金	1,740万円	消防費	
光ブロードバンド整備費負担金	9,100万円	救急車購入費	4,000万円
農林水産業費		教育費	
農業基盤整備促進事業	1,332万円	プール施設整備事業費	4,330万円
土木費		阿室校屋内運動場床張替工事費	530万円
道路整備事業（中央橋）実施設計委託料	2,000万円	教員住宅建設事業費	2,835万円

### 《平成29年度特別会計予算》

会計区分	予算額	増減 (前年度比)
国保事業	3億7,758万円	△693万円
国保施設事業	6,660万円	△923万円
簡易水道事業	3億2,781万円	△1億5,882万円
農業集落排水事業	8,970万円	1,331万円
漁港漁村排水事業	1,922万円	△20万円
介護保険事業	2億9,303万円	883万円
後期高齢者医療事業	3,708万円	△47万円

### 《村民1人当りに使われるお金》

議会費	33,939円
総務費	313,033円
民生費	249,337円
衛生費	102,665円
農林水産業費	170,452円
商工費	36,440円
土木費	290,435円
消防費	90,378円
教育費	175,778円

※人口：1,745人（平成29年3月末現在）で計算

## ■ 新職員紹介

平成29年度の新職員を紹介します。



河野 三郎 (24)  
(保健福祉課)  
出身：奄美市住用町

福永 顕志 (23)  
(教育委員会)  
出身：宇検村生勝

玉利 ゆかり (35)  
(阿室へき地保育所)  
出身：宇検村生勝

保池 葉月 (27)  
(議会事務局)  
出身：宇検村久志

## ■ 宇検診療所

今年度より、宇検診療所は宇検村役場の運営となりました。どうぞよろしくお願いたします。



碓元 隆浩 (38)  
(看護師)

伊元 雅子 (53)  
(看護師)

本橋 賢治 (39)  
(医師)  
出身：横浜市

肥後 豊美 (53)  
(事務職)

柳 栄治 (47)  
(事務職)

- 診療日：(月)～(木) 休診(金),(土),(日)
- 診療科目：内科
- 診療時間：午前9時～午後12時、午後2時～午後5時
- 電話番号：67-2030



# 遺族や関係者ら全員の悲願 対馬丸慰霊碑が完成



6 亡くした弟（当時小4）へ向け、涙ながらに語りかける又吉正子さん 7 遺族、生存者を代表してあいさつする上原清さん 8 取材するたくさんの方々のマスコミ関係者ら 9 碑文を朗読する久志中学校の要凱仁くん（右）と野上田一兵くん（左） 10 慰霊碑の前で児童生徒との記念撮影 11 自作の短歌を読み上げた大島安徳さん 12 祝賀会の様子 13 対馬丸記念会の高良政勝会長（左）



1 完成した対馬丸慰霊碑。遺族の方々よりサーターアンダギーや千羽鶴、お花などが供えられました 2 大雨の中、頭を下げる参列者たち 3 沖縄県浦崎唯昭副知事 4 除幕式に先立ち、船越海岸に降り、お菓子などを供え焼香を行う遺族の方々 5 あいさつする元田信有村長



## 建立除幕式・祝賀会 を盛大に開催

1944年8月22日に米軍潜水艦の魚雷攻撃により沈没した沖繩からの学童疎開船「対馬丸」。平成27年10月に「対馬丸慰霊碑建立実行委員会」が組織され、建設中だった慰霊碑がこのほど完成し、船越海岸にて平成29年3月19日に竣工式が執り行われました。沖縄県から遺族や生存者のほか、行政関係者らが来村。近隣の行政や議会、住民などを含め約100名が出席しました。犠牲者1482人の冥福を祈り、平和への願いを新たにしました。

元田村長は「慰霊碑の建立は、遺族の皆様、宇検集落の方々をはじめ、多くの関係者の永年の願いであり、思いである。宇検村の歴史として検証し、次の世代へ語り継ぎ地域の平和教育に活かす為にも、慰霊碑の建立は避けては通れないものと取り組んでまいりま

した」とあいさつ。沖縄県の浦崎唯昭副知事は「宇検村に漂着した遺体は村民によって手厚く埋葬され、21人の尊い命が村民の必死の救出作業と手厚い看護のおかげで救われたことにあらためて深く感謝する」と述べました。

除幕式が始まる直前に雨が降り始め、雨脚が強まる中、当時9歳で乗船した平良啓子さん（82）ら遺族代表が久志小中学校の子どもたちとともに除幕を行いました。久志中学校の要凱仁さんと野上田一兵くんが碑文を朗読。碑文には対馬丸撃沈事件の概要や船越海岸での救助の様子とともに「恒久平和と奄美・沖縄の絆を記します」と刻まれています。当時、救助活動を行います。語り部として慰霊碑建立の必要性を訴え続けてきた大島安徳さんは自作の短歌「受難のみ魂ら とこしえに 祭りつたえむ 船越えの 祭りの魂ら とこしえの 涙」を力を込めて読み

## 次世代へと繋ぐ 奄美・沖縄の絆

上げました。遺族、生存者を代表して、6日間漂流し、大和村今里で救助された上原清さん（81）が「この救われた命には使命がある。対馬丸のすべての子どもたちからの命のバトンを託したい」と語りました。生存者や遺族らは除幕式前に海岸へ降り、沖繩から持参したお菓子や千羽鶴などを供え、対馬丸が沈没した方向に向かって手を合わせました。

式典後、会場を宇検集落公民館に移し、祝賀会を開催。対馬丸記念会の高良会長はあいさつで「この慰霊碑が奄美大島と沖繩の懸け橋となり戦争の愚かさを未来に伝え、世界平和への道しるべとなることを願います」と語り、村内の小中学生に平和学習の教材と「平和のバトン」の証である琉球手まりを手渡しました。

## 対馬丸慰霊碑建立記念企画展を開催

慰霊碑建立を記念して3月1日から31日まで、元気の出る館にて対馬丸慰霊碑記念企画展「奄美大島と対馬丸—いのちと魂を受け止めた島と対馬丸の縁をたどる—」を開催しました。那覇市の対馬丸記念館から資料を借用し、展示パネル約50点のほか、生存者の上原清さんが体験を描き、宇検村へ寄贈していただいた水彩画11点や複製された当時のランドセルなどを展示。村内外から317名が来場しました。

